

瑞岩寺報

2014.03.01
(平成26年 弥生)

【春のお彼岸号】

春のお彼岸・花祭り総合案内

春のお彼岸・花祭り法要

【期 日】 3月21日 (春分の日)

【場 所】 瑞岩寺本堂

【時 間】

午前10時より塔婆合同先祖供養

◎申し込みは自由です。

先祖供養でも、故人の供養でも構いません。

◆強制ではありませんので、ご供養してあげたい方のみご参加ください。

【塔婆先祖供養料】 5,000円

【個別供養料】 プラス5,000円

【花祭り供養料】 ご自由です

春のお彼岸法話

この度、春彼岸のあとに浅草浅草寺より塩入亮乗先生をお招きし、『日本人のこころと宗教』と題してお話をいただきます。是非、多くの人のご参加をお待ちしております。入場は無料です。

住職 長谷川 昭雄

【時 間】 午前10時半より

〈塩入亮乗プロフィール〉

昭和29年 東京生まれ

成城大学文芸学部文化史学科卒業

大正大学大学院仏教史専攻(修士課程)

・博士課程満期退学)

仏教民俗学を研究課題とする。

現在は浅草法善院住職、浅草寺本堂部

勤務、大正大学講師などに従事。



お墓そうじ

瑞岩寺にお墓のある方へのご案内です

【日時】 3月16日(日) 午前7時頃から

春のお彼岸が近づいてきました。お墓のお掃除をしましょう。お彼岸前の一斉お墓掃除を右記のごとく行ないます。たまには早起きしてお墓掃除も気持ちいいものです。お子さんやお孫さんといっしょにどうぞ。

◆強制ではありません。この日この時間でないといけないということではあ

りません。◆自分のお墓の掃除が終わら通路など共有の場所のお掃除も積極的にお願いします。◆遠方の方はお寺でやっておきますのでご安心を。◆飲み物の用意、あります。

Attention!! 以下の点にご留意ください。

春のお彼岸・花祭り法要について

◎供養塔婆について、「必要」・「不要」を返信ハガキに記入してください。

◎「必要」の場合は春彼岸・花祭り法要に「出席」・「欠席」を返信ハガキに記入してください。

◎「必要」で「欠席」の場合は、必ず3月21日以降に塔婆を受け取りにお出でください。

塔婆を受けられる方は風呂敷などを、ご持参ください。

お支払いは、当日でも結構です。

市内・県内外の檀信徒の方に

市内・県内外の方は同封の振込用紙をお使いください。

県外の方でお塔婆をお供えできない方は瑞岩寺でお墓にお供えいたします。ご一報ください。

返信葉書は3月16日必着です。

永代供養墓・水子供養墓関係者の方へ

永代供養墓または水子供養墓にお入りになっている方については、瑞岩寺で責任をもってお盆の供養をしておりますが、個別でのお塔婆を希望される方はお申込みください。供養料は前項にある通りです。

大本山永平寺参拝の旅

檀信徒の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、瑞岩寺では再び一泊二日大本山永平寺参拝の旅を企画いたしました。

今回の企画でも永平寺の宿坊に宿泊し、座禅法話・精進料理を体験し、朝のお勤め(約200名の僧侶による読経は他では絶対に見られません)に参加いたします。

この機会に、修行道場にあふれる峻厳な空気にふれてみませんか。

なお、他に世界遺産である五箇山の合掌造り集落の観光を予定しております。

予定／一日目 5月24日(土) 瑞岩寺(7時)発 永平寺(泊)

二日目 5月25日(日) 永平寺(8時半)発 五箇山合掌造り集落 瑞岩寺(18時頃)

◎募集人員 / 20名様

◎旅行日 / 平成26年5月24日(土) 25日(日)

◎旅行代金 / お一人様 17,800円

◎申込方法 / 申込書にご記入の上、5月1日(定員になり次第、締め切らせていただきます)

※宿泊は永平寺の宿坊になります。

※20名様集まらない場合は中止とさせていただきます。

※車両は、マイクログラス(レンタカー)になります。

※代金は交通費・宿泊代・各寺等の拝観料です。 ※昼食代、ご朱印代等は別途各自払となります。

旅行主催 / 瑞岩寺旅行部

浅草法善院住職、浅草寺本堂部勤務、大正大学講師

塩入亮乗さん

インタビュー

(副住職)

本日は、お忙しい中わざわざインタビューの時間をとお取りいただきまして、誠にありがとうございます。先生の専門である日本の民俗学についてお話しをお聞かせ下さい。

(塩入)

どうぞ何でもお聞きになってください。最近、宗派を超えてさまざまな所で呼ばれるようになりました。うちは浅草寺の境内の中にある塔頭寺院であります。私の先輩に宇野さんという方がおりまして、「行事」や「祭り」を研究されたいいと薦められたのがきっかけです。最初は、「祭り」などがテーマになるのかと思っておりました。

私も執筆しました『仏教行事散策』

や『仏教行事歳時記』などを出版するときに、中村元先生やお弟子さんの上村さん、藤井正雄先生に大変お世話になりました。行事は面白いです。宗派を超えますからね。宗派の行事だと思っていることが、そうでないことも多いのです。

たとえば、お正月に鏡餅をあげますが、何故、鏡餅をあげないといけないのか？宗派が違ってベースは同じ訳です。

行事は既に日本人の日常生活の中にとけ込んでいることが多いので、理由を知らない事が多い。特に日々の生活に影響があるわけではありませんが、意味を知ればもっと面白くなります。

さらにそこには、日本の仏教文化が集約されている部分もありますから、根本がわかると仏教を理解しやすくなるのではないのでしょうか。

(副住職)

ここ浅草は三社祭りの本場ですものね？

(塩入)

やはり、京都・奈良の祭りには叶いません。京都・奈良は古くていいです。きちんとしていますし頑固です。時代に流されずに、原形を保っている部分が多い。

行事は12ヶ月あります。稲作、畑作の行事が混ざりあってできあがっています。正月の行事から始まって、最終的にどこが目的かといえば秋の収穫祭です。で収穫が終わるとまた来年の豊作を祈る。その循環になります。

一方で仏教の根本である不安とか、なにか得体の知れないものに対する防御みたいなものも行事に入っています。それは豊作を妨害するものもあるでしょうし、一方では身体を弱らせて

しまう不安もあります。とにかく、人間は不安な気持ちで毎日生きています。

(副住職)

そういえば、先生には本堂は先生には3年前の春彼岸に来ていただくはずでしたね。

(塩入)

あの3・11で東武伊勢崎線が運休になりました。停電もし、ガソリンがなくなつて延期したわけです。国が発表する放射線の情報も後に嘘であることがわかり、世の中が安全でないことが国民も良く分かったと思います。

不安の根本は仏教の経本に書いてあることとは全く違います。お寺に来る方1000人にアンケートと取ってみればいい。おそらく悟りを開きたくてお参りしている人は、ほとんどいません。しかし、仏教の目的は「悟り」です。お坊さんは「解脱」させたいと思つているが、お参りにきている人はそれを目的としていません。

皆さんが、求めているものとお寺の

提供しようとしているものにギャップが生じています。では、それを埋めるにはどうしたらいいでしょうか。

良くお彼岸のときに、お寺でお悟りの話しをしますが、どうしてお正月にお悟りを開いてはいけないのでしょうか？多くの人々の求めているものは、実は家内安全とか、無病息災、入学、就職祈願です。そういう現世利益的なことになります。

では、あの世がなぜ必要なのか。答えは「必要だから」です。人間恒に不安を感じていて不安だらけ、更にあの世は分からないからもっと不安な訳です。

お釈迦さまの時代には仏教は宗教ではなかったのではないかと思います。宗教ではなくて、倫理学に近かったのではないかと。こうしたほうがいいとか、こうしないほうがいいとか、とても生活に密着した現実的なものだった。

その後、お釈迦さまがお亡くなりになって、宗教的なものになったのでは

ないかと思えます。人間がその人の死後を語り始めたから宗教的になってゆきます。お釈迦さまも亡くなると死後を説かざるをえません。ゆえに宗教化してゆきます。

この宗教化していったときに、はじめて救いの場がもたらされるのです。死を意識し始めたときに始めて救われる部分ができます。

たとえば、人間ドックにいつて、1週間後に「○○さん、言いづらいのですが、あと1年の命ですよ。」と言われたらどうなるでしょう？

まず、否定をします。「先生、冗談はやめてくださいよ」と。これは、死を実感できませんから、まだ生を考慮しています。会社を休んだらどうしようとか、給与はどうなるのだろうか考えるんです。死というものをまだ実感できないでいる。

次に、神仏と取引を始めます。「私は○○が大好きなんです、それを止めますので是非助けてください」とそれが、無効だとわかると、次第にいら

だつてきます。周りに「自分は生きていても価値はない」と言いふらし、し、周りに苛立ちをぶつけてきます。それを繰り返すと、鬱になります。次に自分の病気が治らないことが分かってきます。話すこともなくなり、慰められても効果がないので鬱になるのです。

しかし、その鬱を解消するものが実は「仏壇」とか「墓地」なのです。

「仏壇」よりもむしろ「墓地」かもしれせん。墓地には向こう側に先祖がいます。お父さん、お母さん、お爺さん、お婆さんがいるわけです。あの世をイメージできれば、一人じゃありません。そうすれば、鬱ではなくなる。なくならないにしても、多少鬱の時間を楽にしてくれるんじゃないかと思ふんですね。

よくドラマのなかで、おばあさんが仏壇に向かって、「おじいさん、こっちは大変なんです。全くあの嫁が私をいじめて、早くそちらに行きたい。」なんて喋っていますよね。あれは、一人じゃないんです。だから、鬱

になりづらい。解消できるんです。

だから、家庭のなかに、あの世がイメージできる「仏壇」があるのとないのでは、死に対する意識の持ちようが大きく異なります。だから、あの3・11で被災した人々は仏壇を欲しがったのです。しかし、あの仮設の住宅には、大きな仏壇をいれたら自分の寝る場所がない。そこで天台宗では、小さな簡易仏壇を購入して、被災地に持っていきました。不安な時に、シンボリックなものがないと亡くなった人々にたいして、どこにむかって拜んでいいかわからない。

精神的にはカウンセラーが当初沢山いました。最初は喜ばれました。しかし、次第に疎まれてきました。それは2年以上も続けると、被災者のデータを集めているのではと思つて嫌になるのです。

村の人々は近所の方には自分の悩みを相談したくない。近すぎるのです。信頼できる人に相談したい。マスクも本当のことを流さないで嫌われてゆきました。福島の人々は、自分たち

がマスコミのネタにされるのが本当に嫌だったのです。

カウンセラーのボランティアは、喜ばれますが、同じ人が毎回来るとは限らないから次第に信頼がなくなるのです。

でも、JAICAはすごかったですよ、ジュースなどの提供があっても手をつけません。彼らはプロとして、仕事をしています。当初ボランティアはとも喜ばれます。しかし、ボランティアアほど逆に充てにならないものはない。たとえば、花の種をまくとしましように。そのあと、誰がその世話をするのでしょうか。ボランティアはボランティアなので次回いつくるのは分からないです。そこへいくとJAICAは仕事としてとらえていますから、常に冷静で長期思考です。たとえば、ジュースを配られても飲みません徹底しています。

被災地で1年もたつと様々な人々が出没してきます。占い師などが、遺体があるのか当てましようと。そして、指し示す場所は至って決まっています。

います。沢山の土砂が重なっている場所や崖の途中とか。いかにも遺体が埋まっているような場所です。

また、都会の仕事で食べれない人がいろんな意味で流れ込んでくるようになります。

そのようなボランティアの人に求めるのはなにか？

1、信頼できる人
2、秘密を守ってくれる人
などです。自分の身内にもしゃべれないようなことを、実はしゃべりたいんですね。

アメリカの部隊はそこらへんを非常に上手に行っていました。実は炊き出しも列にならないように工夫していたんです。お皿をもって列になっていると、路上生活者のようで被災者は嫌なんですね。パーティ形式で、露天を沢山作り、取り放題にしハワイの音楽を流すなどの工夫があります。

また、遺品の処理も問題でした。曹洞宗の方々は少し失敗した感があります。祈祷してお炊き上げをするのは良かったのですが準備を葬儀社に任せて

しまった。

また、今日は曹洞宗の東京支部、次の日は浄土宗の福岡支部、明日は浄土真宗の大阪支部、、、というように入れ替わり立ち代わり来られるのも住民は疲労困憊していました。

なんでも合同でやらないといけないのですが宗派意識が強すぎる。宗派でやると実は「お化け」が出やすいんですね。なぜかといいますが、供養をきちんとした宗派はいいのですが、供養をしていない宗派の方々は不安で夜もおちおち寝れません。そして、誰かがボソツと「お化け」が出たなんて言うものなら一気に広まってしまいます。宗派は未だに各宗派ごとにやろうとしています。ちょっと、考え直さないといけない点ですね。

また、先日比叡山で各宗派のシンポジウムを開きましてそこで司会を仰せつかりました。しかし、ちょっとカチンときてしまいました。ある宗教団体ですが、自分たちは福島の現地で一軒一軒回ってさまざまなことを調査したと言いましたね。「調査」という言葉

を使つたのです。宗教者なのに全く住民の立場に立っていません。住民からすれば、調査される筋合いはないし、宗教者にそんなことを求めているのでしょうか？

話しは変わりますが、被災地では必ずシンボリックな建造物を建てたくありません。宮城県でとても上手にやつた例があります。慰霊碑を作ろうということになって観音様を建立することになった。それも見上げるような大きな観音様です。でも、普通に作つたら意味がありません。そうしたらなんと、その観音様の高さが津波の高さに合わせたものを造つたのです。これならいつまでも語りつがれて忘れることがありません。

被災の当初は瓦礫や津波の跡が累々としていきますので、そのようなものがない津波の高さをイメージできなくて。しかし次第にキレイになっていくとそういったものも取り壊されなくなつてしまった。そこで考えたんです。すばらしいアイデアです。

先ほど、申しましたように、食事を配給するのでも、路上生活者のごとく

にするのか？パーティ形式や屋台形式で、好きなものを好きなだけ食べられるように配慮する。また、シンボリックなものを建立するにしても、津波を忘れずさらに、亡くなられた方々を偲べるものを造れるか？そういう細かい配慮がとても大事になります。

現地が一番人気のある宗派は実は「時宗」なんです。時宗の供養回向は現地の若手の僧侶が事前リハーサルとして行っています。時宗は歩きながら念仏をお唱えしますので、そのルートをきちんと、「〇月〇日に本山から△△さまが来られてここを何時頃通られます」というように。だから、当日きちんと人が集まってきて、感謝されます。

失敗する宗派は、バスで法要場所まで乗り付けて、法要だけしてそのまま帰る。現地の人にとっては、バスの停車場が自分の敷地だったりするわけです。それも突然来て、いい気がするわけがない。

また、テントをきちんと張るか張らないかも大きな違いです。テントを張

るところが「会場」になり参加者にとっては安心感がでるのです。さらに法要に参加させること。もし、ご詠歌の現地グループがいれば法要に参加していただく。すると、法要を自分たちでやったという充実感ができます。

報道でも大分叩かれていました大川小学校でも、報道と現地の情報は違います。「早くあの丘に逃がしてあげれば良かったのに、」と言われるそうです。現地の人はもううんざりしている。あのとき、先生も小学生も一度校庭に集められたんです。で、先生と生徒は何をやっていたと思います？

「おしっことゲロの処理」だったそうです。確かにあの巨大地震で小さな子どもたちは恐怖で泣きわめき、おしっこを漏らしたり、誰かがゲロをすれば隣の子もというふうだった。それを先生たちは一生懸命なだめて対処していた。でも、そういうことは一切報道されない。

また、次第に遺族も2つのグループに分かれてきます。身内の遺体が見つかったグループと見つからないグループ

です。慰霊祭を行っても見つかったグループは帰路につきませんが、見つからないグループは、ただそこに立ち尽くしています。帰る場所、祈りを届ける場所が分からないのです。

実は、仮設住宅にも2種類ありまして、1つはプレバブの倉庫のようなもの。もう1つは、住宅会社の建てたものです。住宅会社のは、縁側がついていたり、壁が木目調だったりします。ほんの些細な違いですが、そこに住み込んでいる人々にとっては、大きな安心や癒しになります。国会議員の家族は是非一度、仮設住宅に住まわれることをおすすめします。

今回の震災では、本当に学ぶことが多かったです。

話は変わりますが、ある占い師が、テレビで仏壇の中に故人の写真をいれると成仏しないようなことを発言したことがあります。そのときはお檀家さんからの電話が鳴り止まず本当に迷惑しました。

信者さんもそんなことを鵜呑みにしなければいいものを、テレビの影響は

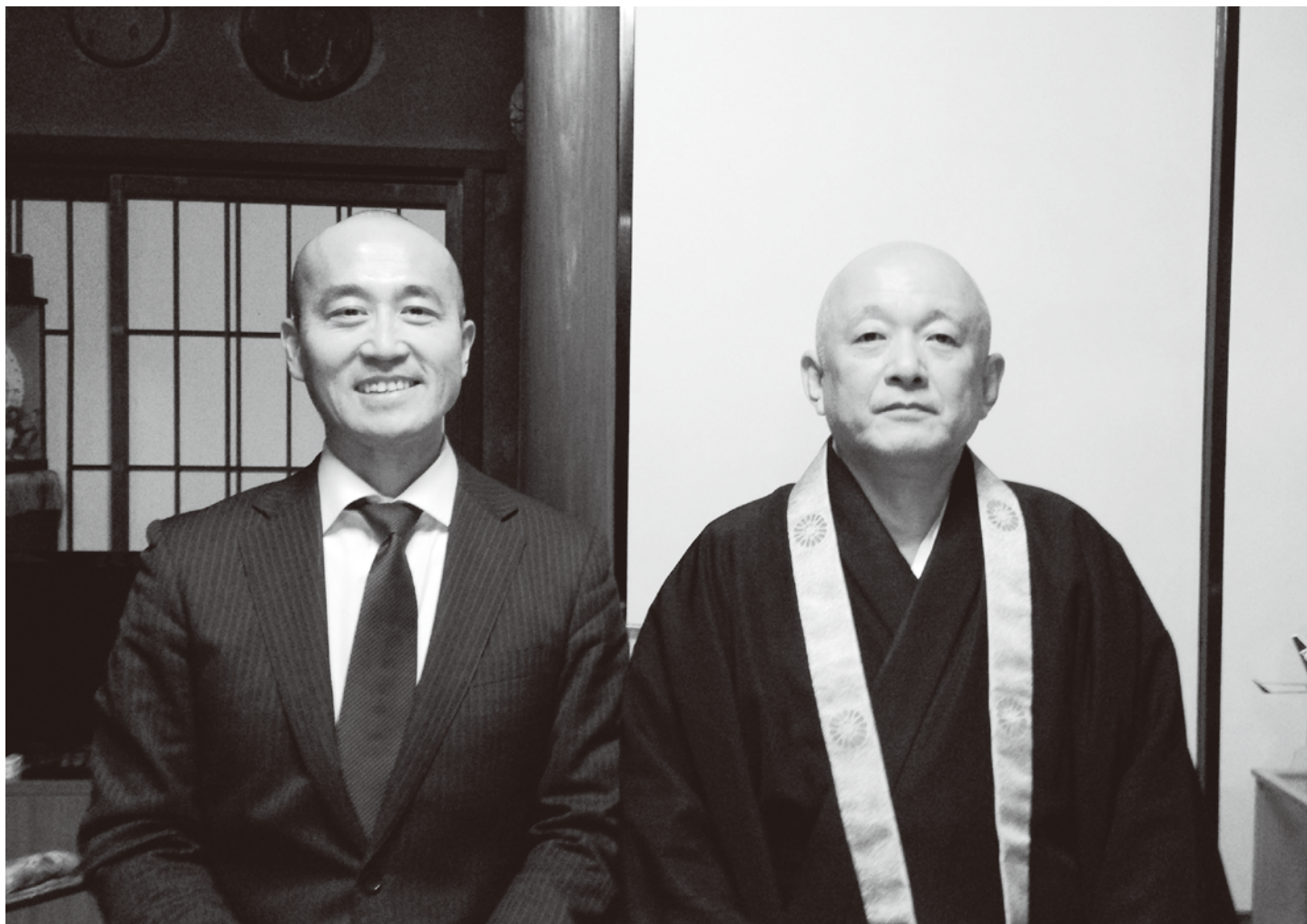
大きいですね。

日本で一番続いているのは、会社を除けばお寺と神社です。「なぜ、多くの日本人がお寺や神社へお参りするのか？」お参りする前と、あとではどのように感じ方が違うのか？この辺を講演会ではお話しさせていただきたいと思っております。

また、現代病のうつ病にもお仏壇やお墓は非常に効果があります。その意味も2つくらいあります。是非、その辺のお話しもしたいですね。

最近のご葬儀のときの法話で、私は「遺言」のお話しをします。「遺書」は「遺言状」とは違います。故人がみなさんに掛けた数多くの言葉の中で、ここに遺っているもの。それが、まさしく「遺言」です。それを後世大事にしてあげること。自分が迷ったときに、その「遺言」が一番糧になります。

それを実行されたのが、川内康範さんです。お寺の出身者なんですが、坊さんではありません。有名なのは、



森進一の『おふくろさん』や『日本昔話』『月光仮面』の主題歌を作詞された方です。

いつも母親に言われていたことがあって、それは「お前は人の傘になれ」ということだったんです。たとえ雨が降ってもお前がまず濡れる人間になれ。そうすれば、誰かが濡れずにすむと。

お寺にお供え物があがるとまず、子どもたちに食べさせずに路上生活者にあげていたそうです。どこかのおばさんがあげたと分かると大変なんですね。大挙してお寺にきちゃうから。だから、正体不明にしていたらしいです。

また、『月光仮面』の「疾風のように現れて、疾風のように去っていく」という歌詞のフレーズは戦後、康範さんが東京にえてきたときに、出会った人がモデルになっているそうです。戦後、アメリカの駐留軍の一部は市中で横暴なふるまいをしていました。そこにある男の人がまさに、「疾風のように現れて、疾風のように去っていく」

ということをやっていた。「どこの誰だか知らないが、だれもがみんな知っている」というフレーズは、誰だか知らないけれども、あの人がくると、悪事を懲らしめて去っていく。それをだれもが知っているという意味だったのです。後に分かることになるのですが、かの空手家大山道場の師範だったらしいです。

また、川内康範さんは、かのグリコ森永事件のときにも、弱者の見方でした。犯人の名前は怪人21面相。そのとき、川内さんは記者会見を開き、犯人に向かって「チョコレートの青酸カリを入れるのは止められくれ。俺の預金通帳に今1億2000万ある。これを全部やるから、子どもたちが楽しみにしている甘いチョコに毒を入れるのは止めてくれ」と。

そういうことをする人だったんですね。これが正にお母様の「遺言」が川内さんの中に生きているのです。

それで川内さんがお亡くなりになったときに戒名を拒否されたんですね。お寺のほうで困ってお願いだから付け

て下さいと。それで家族で決めた戒名が「生涯助っ人」です。いい戒名でしょう。

最近、世間で康範さんと同様な行動をしているのが、「タイガーマスク」ですね。「タイガーマスク基金」というものを立ち上げ、施設の恵まれない子どもたちにランドセルや文房具を送っている。最近ではランドセルではなくて、成人式のときの振り袖を着て写真を撮るなども年に何組という形で実行しているそうです。そしたら、今度は本物の着物屋さんか、内が無償で晴れ着を提供しますというのが出て来た。本当にすばらしいことです。

みんなが「傘」の役割を買ってでているんですね。素敵なことです。苦労した人はみんな、弱者の気持ちが良いほど分かります。弱者と知っている人はちよつと発音が違うんですね。

家族が迷ったときにこそ、故人の遺言をみんなで持ち寄って判断するようになったらいい。「おじいちゃんが生きていたらこうするんじゃないか」と。そこにおじいちゃんはいつまでも生き

ているし、そこに存在しています。だって、すべておじいちゃんの言葉ですから。

家族が繋がるといふのは、実は「遺言」だと思えますね。

(終わり)

宗派自由 あんのん墓苑

太田市のシンボルである金山が眼前に広がる絶好の立地で、仏様に見守られているという安穩(あんのん)な気持ちでお参りができると言うのが墓苑の名前の由来です。

見学自由・お申し込み随時受付中

- 広々とした平坦な墓苑で、車イスでもお参りできます。
- 陽当たり良好な全区画南向き・みかげ石通路。
- 駐車場・洗面・トイレ完備。
- 本堂や書院(冷暖房完備)を常にご利用いただけます。
(瑞岩寺でお葬式・告別式・年忌法要など、あらゆる法事を行うことが可能)
- 自由設計による墓石建立が可能です。
- 永代供養墓は、相続可能な新しいタイプのお墓です。(群馬県初)

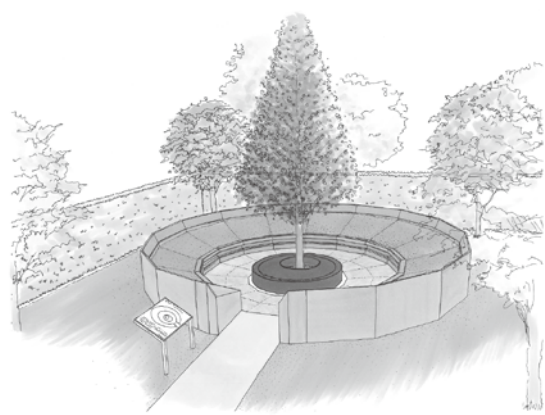
墓地契約時の経費

年忌法要のお布施3~5万円。石塔開眼供養料3万円以上。塔婆5千円。施餓鬼会供養料1万円(塔婆1基の料金と供養料を含む)など葬儀布施・戒名授与(法号料)も基準を設けています。仏事法要に関すること何でも気軽にご相談ください。

*上記の工事金額は、白御影石を使用する普及型から黒御影石などを使用する高級型にいたる、およその見積もり金額です。尚、これは消費税を含む墓石建立に関わるすべての費用です。

- お寺からの寄付の要求は将来にわたってありません。瑞岩寺は財務を公開しています。
- 後継者の名字(姓)が変わっても継承できます。(後継者のいない方には永代供養墓(相続型・非相続型)をお勧めします。)
- 入壇された方は本堂内陣に戸別の過去帳を位牌に収めてお祀りし、戒名を唱えて永代に供養します。

墓地の種類	永代使用料	その他経費		合計金額	石碑建立時に石材店に支払う費用の目安
小区画 1.5m×1.4m 2.1㎡	30万円	基礎造成費 10万円	墓地管理費 2千円/年	40万2千円	およそ 40万円 ~ 70万円
普通区画 1.8m×2.0m 3.6㎡	35万円	基礎造成費 15万円	墓地管理費 3千円/年	50万3千円	およそ 50万円 ~ 120万円
ウイズベット 1.8m×2.0m 3.6㎡	45万円	基礎造成費 15万円	墓地管理費 3千円/年	60万3千円	およそ 50万円 ~ 120万円



樹木葬墓地「木もれ陽」

〈45万円・夫婦90万円〉

墓を建てたいが後を委ねる家族がいない、子供がいても後々の負担をかけられない、かけたくない。こうした家族の変化を受けて、瑞岩寺では、宗派を越え、かつ跡継ぎを必要としない樹木葬墓地お墓『木もれ陽』(個別型)を建立しました。最近、注目される自然葬であり、墓石などは建立せず、土に還るタイプです。承継者がいなくなっても、瑞岩寺が基金運用によって供養、管理を続けるお墓です。そして、この度個人型の永代供養墓を新たなコンセプトをもとに建立しました。

住職日記 『ある病院院長先生のご葬儀を終えて』

葬儀がまた変わろうとしている。高い戒名はいらないとして、『葬儀そのものがいらない』と書いた本がベストセラーになった。

そして、イオンが打ち出したのは葬儀そのものの価格化と僧侶の一次的派遣業。

さらに、直葬、家族葬が追い打ちをかけた。

時代と人々のニーズに合わせた葬儀が各種多様になることは悪いことではない。時代は少子高齢化で葬儀の需要は高まり、ビジネスがこの分野に進出するのは当然だ。

しかし、価格や簡素化だけに絞られて本当に良いものだろうか？

本来「何のために」葬儀はするのだろうか？

大切な人がこの世から突然消えるという現実には一人では到底立ち尽くせない。現にそうやってみないとなかなか体感できないものだ。でも、そういう経験を通してこそ初めて分かる祖父母や父母、大切な人の恩がある。

亡くなった故人を「ホトケ様」にして、あの世に送り、恒に見守り続けてもらうそんな存在にし、一度きちんと自分にも他人にも区切りをつける儀式。

つい先日、ある大病院の院長先生のご葬儀をさせていただいた。この太田市の地にまだ病院の少なかつた頃、横浜の都会からわざわざ病院を設立し、51年の永きにわたり地域医療と福祉に邁進されたまさにホトケのような方だった。

葬儀も親類を始め、仕事仲間、市長さん、お孫さんなど多くの方がマイクを持つと故人の想い出を語った。

参列していた方々には故人の歴史が蘇り、まるで故人に逢っているかのような錯覚に陥っただろう。

ハワイで葬儀をしていたとき、このように故人の想いを語るのを「ユーロジー」という。

「ユーロジー (Eulogy)」とは、人物や物を賞賛する演説または文のこと。語源はギリシャ語の $\epsilon\upsilon\lambda\omicron\gamma\omicron\gamma\alpha$ (eulogia) の、意味は、 $\epsilon\upsilon$ (善い) + $\lambda\omicron\gamma\omicron\gamma\omicron$ (語・句・演説など) 「賞賛」の意味だ。

浄土宗が葬儀で僧侶が「賛偈」を詠むが、「ユーロジー」は一般の参列者が行うものがある。

日本の「弔辞」よりももっとフランクでやわらかい感じがしたのを感じている。

先生の「お別れのことば」もまさに「ユーロジー」だった。外から見ただけでは分からない苦労や辛さがあったことも知った。もちろん、家族や職場の絆も分かった。

人間大切な方を失ってみて初めて、その人の本心に近づけるのかも知れない。

葬儀は、価格や形式も大事だが、もっと心のこもった故人を偲ばせる葬儀は、僧侶が先導し、遺族と葬儀社で作り上げるものだと思う。

心をこめてやれば、本当にすばらしい葬儀になり、故人も遺族も救われると信じています。

そして、宗教者がいたからこそ救われた。宗教者がいたからこそ前向きな気持ちになれた。そういうられるよう精進していきたいですね。

合掌

副住職 長谷川 俊道

平成25年度宗教法人「瑞岩寺」の決算における収支決算書を同封します。当法人の運営と財務は、瑞岩寺院規則により、公開しています。随時ご覧いただけるよう事務所に備え付けています。みなさまのお布施ならびにご寄付はすべて大切に使用させていただきます。信徒ならびに利害関係者各位様

平成26年1月30日

代表役員 長谷川 昭雄

お知らせ

podcast
「こまつたときの聴き込み寺」
(毎週金曜日好評配信中！)



すべての人に佛さまの智慧と慈悲を
宗教法人 **慈眼山 瑞岩寺**
群馬県太田市矢田堀町388
TEL:0276-37-1231/FAX:0276-37-5535
E-mail:info@zuiganji.com
Website:http://www.zuiganji.com
ブログ http://ameblo.jp/zuiganji/
◆御意見、御要望はいつでもお知らせ下さい。
◆お身体をお大切に、お健やかに暮らしてくださいませ。
◆み仏さまの御加護を心からお祈りいたします。 合掌